

主任教授からのメッセージ

泌尿器科にも、この20年ですいぶん女性泌尿器科医が増えてきました。昨年の専門医試験の受験者で見ると、20%が女性医師になっています。泌尿器科は男性、女性の尿路生殖器・後腹膜臓器という非常に広い範囲の疾患を対象としていますが、男性生殖器が含まれるため、女性にとっては専攻しにくい科の一つと考えられていたかもしれません。

しかし医学的には、泌尿器内科、泌尿器外科を包括し、非常に広範囲の分野から自分に適した専門性を身につけることができます。さらに緊急疾患・緊急手術の頻度が少ないという意味で、外科系を目指す女性医師にとっては、取り組みやすい科だと思います。

外科系に興味がある女性医師の皆さん、ぜひ、どんな科なのか、中身を見に来てください。

○ 診療科の特徴

腎、副腎、尿路、生殖器、後腹膜・骨盤の疾患が対象です。泌尿生殖器・後腹膜・骨盤の腫瘍（悪性、良性腫瘍）、排尿障害、感染症、結石症、移植、泌尿器内分泌（副腎）、不妊、性機能、女性泌尿器（女性特有の泌尿生殖器疾患）、小児泌尿器疾患など非常に広い分野に対して診療を行います。

個々の医師の適性（社会的環境）なども加味して、多くの分野から自分に合った専門性を選択できるのが特徴です。

該当疾患に対する治療も、内科的治療（薬物療法）、放射線療法、小規模の手術（経尿道的内視鏡手術など）から大規模な手術（腹腔鏡手術、ロボット手術、開腹手術）まで、多岐にわたります。外科的治療ひとつとってみても、女性一人でも可能な手術が多くあります。泌尿器科では、多くのメジャーな手術がロボットで行えますので、女性でも楽に大規模な手術ができるようになってきています。

泌尿器科は内科・外科に分かれていないため、最適な治療方針を一つの科で決めることができます。このような独立性は、個々の医師が最善を追求する点で、大きなアドバンテージになります。

○ 診療科で働く女性医師

現在、附属病院に2名、総合医療センターに2名の女性医師が在籍しています。

4名のうち1名は泌尿器科専門医を目指して、知識技術を身につけるよう、指導体制を強化しています。ほか3名は泌尿器科専門医を取得し、自身の専門性を確立され、様々な学会で活躍中です。

このように、当講座では女性も活躍できる場を提供していきます。



➤ 職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

個々の先生方の復帰については、先生方の休職前のキャリア、休職期間、希望する将来像などによって大きく異なりますので、まず、先生方が希望する復帰形態、復帰のタイミングを十分にヒアリングして、無理なく復帰できるような枠組みを作っていきます。例えば、最初は、外来診療のみでの復帰を希望される場合には、その外来をサポートできるような曜日に来方をさせていただきます。入院、手術含めてフルタイムで復帰される場合には、当科は、2～3人のチームで患者さんを受け持ちますので、3人チームに入っただき、徐々に業務に慣れることができるよう、配慮しています。

○ 研修内容

特に、入院患者さんの診療については、チーム制で行うため、すべてが個人の負担にはなりません。先に述べたように、3人のチームに入り、チームとして医療に携わりますので、常に上級医師とディスカッションして知識を得ることができますし、時間的に最後まで参加できない手術であっても、チームでカバーすることが可能であり、執刀医師として臨床経

験を積むことができます。また、月曜日、木曜日に臨床症例カンファランス、火曜日に抄読会や研究支援カンファランスを行っていますので（附属病院）、これらの場で知識を得ることもできますし、担当患者の治療方針などを全医師と議論できる体制を確立しています。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

日本泌尿器科学会における女性会員の割合は2020年には7.8%とまだまだ全体に占める割合は少なく見えますが、2020年の新規入会者数に限れば20%、5人に1人が女性です。当科では、小切開で行う陰嚢や尿失禁の手術のほかマイクロサージャリー、経尿道的な腫瘍切除術や結石に対する碎石術、開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術など多彩な手術を行っています。このため、妊娠中、産後でも体調をみながら手術に参加することができ、キャリアを継続しやすいと思います。それぞれ家庭環境が異なれば、出てくる悩みも異なります。妊娠中、産後の働き方については一律に決めるのではなく、個々人の状況に応じた対応を考えていきます。当科では男女問わず、相談しやすい雰囲気がありますので、いつでも相談してください。

復帰した医師の声

体験談（A先生）



私は現在6歳、3歳、0歳の3人の子供がいます。3人の産後にそれぞれ産休育休を取得し、産後もしばらくは短時間勤務で働かせていただいています。短時間勤務も曜日によって勤務時間を調整することも可能で、柔軟に対応していただける環境です。また、周りの先生方の理解、サポートもあり、夫とも協力し忙しいながらも仕事、育児家事と充実しています。つわりでつらい時期など長時間の手術を交代していただいたり、外来をメインにさせていただいたり調整していただくことで、体調に合わせて働くことができました。2人目出

産後に泌尿器専門医を取得し、3人目妊娠中に泌尿器腹腔鏡技術認定医を取得しました。妊娠出産によるブランクもありますが、日々勉強し今後もキャリアを積み重ねていきたいです。腎泌尿器外科は女性医師が少ないというイメージがありますが、後輩の女性医師も増えてきており、男性の先生方もとても優しい先生ばかりなのでとても働きやすい環境です。

体験談（B先生）

私は、卒後6年目（入局4年目）に長女を出産し、2年後に長男を出産しました。2人の産後はそれぞれ半年の産休育休、1年間の短時間勤務とさせていただきます。その後、1年半だけフルタイムに戻り、大学院に進学、2019年（卒後15年目）から臨床に戻り現在に至ります。現在、長女は15歳、長男は13歳になりました。長女は高校1年生、長男は中学2年生となり、育児のピークは越えたように感じています。現在、当医局には私を含め女性医師が4名います。チーム制をとっているため、誰かが急に休んでも柔軟に対応できるようになっており、男女問わず働きやすい環境だと思います。一緒に働く仲間が増えるのを楽しみにしています。当医局に入局される方でも、女性医師としての働き方、育児などについて相談に乗りますのでどうぞ気軽に声をかけてくださいね。



● 講座ホームページ 関西医科大学 腎泌尿器外科学講座 <https://www7.kmu.ac.jp/urology/>